

野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第4号

発行：令和5年2月1日 野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局（野津原支所 ☎588-1111）

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

令和4年度野津原地域まちづくりビジョンフォローアップ会議 ■ 令和4年11月16日(水)18:00～
■ 野津原市民センター 大会議室

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。



◆地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況（抜粋）

事務局より野津原地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況を説明し、意見交換を行いました。
※地域まちづくりビジョンの提案事業内容については裏面の概要版をご覧ください。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

- 提案事業1 国道442号の朝地までの拡幅
- 提案事業2 スポーツを通じたまちづくり事業
- 提案事業3 ダムの魅力を活かした地域づくり

取組状況

- 国道442号線の石合地区以西の本格的な整備については、地元期成会や他市と連携を図り、引き続き事業主体の県へ要望していく。（地域・行政）
- ダム周辺で七瀬の里Nクラブがサッカー大会、マラソン大会を開催。また、軽スポーツを楽しむ「天空BBフェス2022」を「大分B-リングス」と共同開催（地域）
- ななせダムを中心とした「野津原地域周遊マップ」「のつはる湖周遊マップ」を道の駅等に設置し、周遊の促進を図った。（行政）
- ななせ交流会が「ダムのある里のつはるフォトコンテスト」や道の駅のつはると連携した「ちっちゃなちっちゃな花火大会」を開催。（地域）

主な意見

- 国道442号の早期整備とダム湖の湖面利用が可能になれば交流人口も増え野津原の発展に繋がると思う。
- ダム湖周辺に四季折々の植樹を行政と地域で協力して進めてほしい。

＜ちっちゃなちっちゃな花火大会＞

提言2：地域コミュニティの維持・活性化

提案事業4 小学校跡地の利活用（中部・西部・今市）

提案事業5 助け合いを実現するやさしい地域づくり

取組状況

- 〈旧野津原中部小学校〉
地域住民との交流を促進し地域活性化に繋げるアートレジオン推進事業（芸術家による校舎利用）や校舎改修工事等を実施。（地域・行政）
- 〈旧野津原西部小学校〉
R4.7月に宿泊型社会教育施設として「のつはる西部の楽校」が供用開始し、受付等の一部を地元が管理運営している。（地域・行政）
- 〈旧今市小学校〉
R4.6月に公募により決定した事業者と売買契約の締結を行った。（行政）
- 野津原地区全域での高速なインターネットサービスの提供を開始した。（行政）



＜アートレジオン推進事業＞

主な意見

- 旧中部小の放送設備が古く使えないためリニューアルしてもらいたい。
- 整備されたインターネットサービスを地域で活用する方法について検討してみたい。
- 予防的家庭訪問実習の一環で学生と高齢者がウォーキング等で交流を深められると良い。



＜のつはる西部の楽校＞

提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

提案事業6 観光農園の開発促進事業

提案事業7 野津原の桜の名所×ウォーキング×（桜）の特産品

提案事業8 ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

取組状況

- のつはる湖右岸に「西部校区まちづくり協議会」と「夢あふれる野津原振興会」が中心となり桜の植樹を実施し、その支援を国・市が行った。（地域・行政）
- 地域おこし協力隊によるSNSを使った情報発信や地域の魅力を写真で伝えるフォトブック、名所や特産品をデザインしたブックカバーを制作。（行政）



＜のつはる湖右岸の桜の植樹＞

事例発表

- ◆野津原町商工会の地域と協力した商品開発、道の駅のつはるでの販売についての取組み
「ななせ柿」を用いたソフトクリームや桜を冠した「桜茶・さくらゼリー・桜ソフトクリーム」を開発。また、「のつはるパンケーキ・きせつクッキー」の商品開発では野津原小児童のアイデアを採用し、その販売においては道の駅で野津原中学生が職場体験プログラム「商人（あきんど）塾」として販売体験を行う等、地域と一体となって野津原の魅力発信を行った。 ※商品化されたものは、道の駅のつはるで販売中



＜商人（あきんど）塾＞

主な意見

- 肥後街道について鶴崎、佐賀関等と連携して幅広く活動できるとよい。
- 看護大学等へ地域行事の情報が届くと、参加したい学生は多くいると思う。

野津原地域まちづくりビジョン以外の議題について

- ななせダム水源地域ビジョンの概要及び取組み状況について説明し、質疑応答を行った。
- 大分市過疎地域持続的発展計画について説明し、質疑応答を行った。

野津原地域まちづくりビジョン概要版(平成30年7月提言)

野津原地域の将来像(コンセプト)

ダムに夢を 森といやしの里 のつはる

将来像への思い

高齢化に伴い、高齢者福祉の充実が必要という意見や学校統廃合後の教育環境の問題、基幹産業の農林業の振興、国道442号拡幅問題などの地域課題が山積しています。「ななせダム」や「道の駅」の完成を契機に、自然豊かな野津原をPRし、明るいまちづくりをイメージしてこのコンセプトとしています。

提言1：ななせダムを核とした地域振興

豊かな自然環境に囲まれたななせダムは、野津原地域最大のインフラとしてその魅力を最大限に活用していく必要があります。今後、道の駅登録を目指す「交流拠点」や、野外音楽ステージを設置した多目的広場などとのハード間での連携を軸に、マラソンなどの各種スポーツイベントなど、地域に人を呼ぶ仕掛けづくりについての支援を望みます。



提言2：地域コミュニティの維持・活性化

学校の統廃合をはじめ、脆弱な通信網や公共交通の不便などにより、コミュニティの希薄化が進行するとともに、若者の移住・定住の意欲低下が危惧されます。急速に進む高齢化に歯止めをかけるため、希薄化するコミュニティの維持・活性化を図るための場の創出や、若者を地域に呼び込む取組を望みます。



提言3：豊かな自然・文化財を活かした観光の振興

ななせダムのほか、野津原にある、美しい自然や景観、地域の伝統文化、豊かな食材等、地域の観光資源を活かしたイベントや名産物の開発等を支援することなどにより、魅力あふれる観光地域づくりの推進を望みます。



提言に基づく提案事業一覧(取組内容)

提言1

提案事業1：国道442号の朝地までの拡幅

- ダムや交流施設の建設に伴い、国道442号を拡幅し交流人口の増加を図る。
- 地域においても期成会活動を県に対し引き続き実施する。

提案事業2：スポーツを通じたまちづくり事業

- 災害時の避難所としても利用できる総合体育館を新設する。
- スポーツを通じて人を呼び込み、地域を活性化する。

提案事業3：ダムの魅力を活かした地域づくり

- ダムの魅力を活かしたイベント等を周辺で実施し、人を呼び込むまちづくりを推進する。
- 親子で楽しめるイベント(いも掘りなどの収穫体験事業)
- 健康意識を高めるイベント(ウォーキング、マラソン、健康教室、ラジオ体操など)。
- 年間を通して野津原に来てもらえる企画づくり(集客を増やすには健康食品や季節の食材など「食」を絡める必要)。
- 周回道路におけるさまざまな種類の桜の植樹(地域外の人に桜のオーナーになってもらう)、交流拠点での食事や季節の食材の販売などといった観光面での強化を図り、1日中観光客が楽しめる体制をつくる。

提言2

提案事業4：小学校跡地の利活用(中部・西部・今市)

- 小学校跡地を地域の交流の場として利活用する。
- 小中学生と地域のふれあい活動を実施(校舎は校区公民館として利用)。
- 野津原の多世代交流の促進(子どもから高齢者まで参加できる料理コンテストを実施し、野津原の季節の食材を使った料理やお菓子、我が家自慢のお漬物などを競い合う。優勝作品は交流拠点で販売し、SNSなどで地域外へもPR)。
- 宿泊できる施設として整備を行い、ダム周辺施設と連携し、地域の活性化を図る。

提案事業5：助け合いを実現するやさしい地域づくり

- 様々な分野のボランティア人材バンク制度の創設。
- 野津原の優れた人、物を繋げるコーディネーターの発掘・育成。
- 一人暮らし高齢者などに対する支援(交通・ブロードバンドなど)の充実。
- まちづくりを推進する多様な組織、団体の構築・支援。

提言3

提案事業6：観光農園の開発促進事業

- ぶどう、いちごなどの観光農園や、産品の開発(地域資源を利用)。
- 野津原の一村一品を観光に活かす(にら、いちご、豊の七瀬柿、しいたけ、豊後牛など)。

提案事業7：野津原の桜の名所×ウォーキング×(桜の)特産品

- 桜を活かした野津原の特産品の開発や、バスやウォーキング、マラソンなどで、野津原を巡るイベントを実施する。

提案事業8：ふるさとの旧跡・民話めぐりガイド事業

- 小学生にボランティアガイドとして野津原の旧跡をガイドしてもらう(教育機関との連携)。
- 伝統文化を継承し、地域への愛情と誇りを育むのと同時に、SNSなどで地域資源の情報発信をする。